

令和5年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 網走福祉協会	代表者	古賀 敏朗	法人・ 事業所の 特徴	網走市向陽ヶ丘の住宅街にサテライト型の地域密着型介護老人福祉施設並びに小規模多機能居宅介護支援事業所を開設運営し、網走市の高齢者福祉、介護の推進、支えに貢献する事を目的とし、平成21年4月にオープンした。ユニット型個室であり、入所定員18名(9名1ユニット×2) 小規模多機能登録定員、15名(通い定員:最大9名、泊まり利用定員:5名) 「地域密着」とはお年寄りがこれまで過ごしてきた地域での生活、人間関係が継続できること。「小規模」とは、お互いになじみの関係がもてる居場所であること。「多機能」とは、『通って『泊まって『自宅にきてくれて『将来的に住む』ことが出来ることが有機的につながっている事を指します。 介護の内容は、日常生活全般の介護看護、地域・社会活動への参加、ご家族への支援である。 介護の目標は、一人一人に向き合い、気持ちに寄り添うこと、1日の生活がスムーズに流れるように支援すること、家族や地域とのつながりが切れないよう支援し、誰でも立ち寄って頂ける施設環境を作っていくたい。
事業所名	向陽ヶ丘レインボーハイツ	管理者	田宮 匡史		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他(網走市社協)	合計
	1人	人	3人	人	4人	1人	人	1人	人	10人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	・引き続き、感染対策をしっかり行い、新型コロナ感染を防ぐとともに、今後も職員が一人一人しっかり考えながら、自己評価に取り組んでいく。	・該当職員全員で、日々のケアを見直し自己評価の実施ができた。 新型コロナウイルス感染者が出ましたが、重症化することなく終息することが出来た。	・忙しい中、よくしていると思われます。 ・頑張ってるやっているとします。 ・細かな情報が不足しているとの職員意見もあるが、全部が全部事前に分かるはずもなく、ある情報でやっていくしかないと思います。 ・細やかに利用者さんに接していると思います。	・今後も職員全員で自己評価に取り組み、より良い評価になるよう日々のケアに努めていく。
B. 事業所のしつらえ・ 環境	・新型コロナウイルスの感染予防をしっかり行いながら、今後も季節感を取り入れた、装飾や行事を取り入れ、利用者の皆さんに楽しんでもらえる環境づくりを行っていく。	・季節ごとにフロアの装飾を変えたり、季節行事を行うことで、利用者の皆さんに楽しんでもらう取り組みを行うことが出来ていた。 ・感染対策を行いながら、外出の機会も少しずつ増やしていく事が出来た。	・利用者者本人から、事業所は居心地がよく、よく眠れると話していました。 ・利用者さんたちが楽しませているなら、それでいいと思います。 ・近くに居ても、大きな音や不快なおいなどはありません。 ・救急車がたまに來ることがありますが、それはしょうがないことです。 ・コロナ前は室内に家族が入ることが出来ていたが、今は室内に家族が入ることが出来ないのだからない。ただ本人は楽しく行っているのいいと思います。 ・日中、鍵はかけていないとのことですが、束縛をしない自由な環境を作っていくという考え方の方で、今の時代的に色々な事件などもあり、施設の方がいいのではとも思います。	・利用者さんが楽しさを持てるような、季節を感じられる環境づくりを行っていく。 玄關の施設に関しては、世間の状況を見ながらどうしていくか検討していく。
C. 事業所と地域の かわり	・今後も新型コロナウイルスの感染対策をしっかり行った上、少しずつ地域行事・イベントなどに参加する機会を作ることができるよう努めていく。	今年度から新型コロナウイルス感染症が5類になったことから、外出機会を増やすことは出来たが、地域行事は中止になったり、そもそも行事自体が少なく参加にまでは至らなかった。	・職員の皆さまは笑顔であいさつされる方も多く、何か伝えたいことや相談があった際にも話しやすい。 ・職員さんは全員親切で、とってもいいと思います。 ・地域行事も縮小、簡略化している中で参加できるもの少ないですね。 ・逆にどんな事であれば、参加出来るかを教えていただくと行事等も考えやすいのでは。 ・少なくとも地域住民に会っても挨拶する職員はゼロに近い。 ・運転マナーが悪いという意見もありました。 ・挨拶もどこまでするか、顔見知りの関係だとしやすいですが、お互いにわかっていないとなかなか挨拶しづらいと思います。	・指摘があった挨拶や運転マナーについて、職員間で周知し改善に努めていく。 ・感染対策を行いながら、地域行事などの参加機会を増やしていく。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	・今後も写真を送らせていただいたり、リモートでの面会など、ご家族の皆さんに利用者さんの日々の生活がわかるような取り組み行っていく。 ・コロナ禍でも家族や地域との繋がりが持てるような取り組みを考えていく。	・ご家族の皆さんには、施設内での出来事の写真を送らせていただいたり、面会も少しずつ再開し、交流を増やすことが出来ていた。 ・地域との交流は会議への参加程度にとどまった。	・現在、地域交流等が難しいご時世であることもあり、イベント参加などは今後に期待したい。 ・今までやってきたことが当たり前に出来ない時代。今後、法人全体としてのどこまでやっていくかのラインを明確にすることが必要と思います。	・引き続き、地域での会議に参加しながら、利用されている方も地域に出向けるような関わりを持って行けるように考えていく。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	・今後も、市と協議しながら、感染対策を行った上での運営推進会議の参加方法等を検討していく。 ・会議には、施設からの実績や報告だけでなく、参加者全体での情報交換や情報共有を図れるよう取り組んでいく。	・今年度から対面での運営推進会議を開催することが出来た。実績報告にとどまらず、地域の方から意見なども聞くことが出来ていた。	・会議には参加できない為、会議録で内容を確認させていただいているが、各議題についてわかりやすく記載されている。 ・会議での意見をどう取り入れて形にしていけるかが、大切だと思います。	・今後も地域の方やご家族の皆さんに参加してもらえるよう案内を出し、少しでも参加していただけるよう呼びかけていく。
F. 事業所の 防災・災害対策	・今後も年2回の防災訓練を行っていくとともに、出来るだけ地域の皆さまにも参加していただけるよう取り組みを行っていく。	今年度も2回の防災訓練を行い、関係機関や地域・ご家族の方に参加してもらえるよう案内をすることができた。 参加された方は少なかったが、引き続き呼びかけを行っていく。	・防災計画については詳細を知らない為、機会があれば確認したい。 ・施設には発電機も2台あり、以前のような停電時など助けになります。 ・一般の避難所とは別として、オムツや介護ベッドがあるので高齢者が一時的にでも避難出来るのでは。	・施設の防災計画について知らない方もおられるので、目のつく場所に防災計画を掲示し確認しやすいようにする。引き続き防災訓練の案内をし、地域やご家族の方に参加してもらえる機会を作っていく。